

第1章 第2次計画の概要

1 第2次計画の概要

平成22年に策定された『第1次備前市子ども読書活動推進計画』（以下1次計画）の理念を引き継ぎつつ、法律¹の趣旨を踏まえ、関係主体の役割を明確にし、子どもの読書の習慣化を目指し、平成27年4月に『第2次備前市子ども読書活動推進計画』（以下2次計画）として具体的な方策をまとめました。

2 第2次計画の特徴

2次計画は、1次計画を踏まえ、「家庭」「地域」「学校園」の3つの場で、それに係る関係機関や主体が子どもの読書環境整備に必要な方策等を掲げ、計画の推進を図ることとしています。（図1）

また、1次計画では計画の達成度を示す数的目標が定められていなかったことを受け、各方策の進捗を計るため、評価項目と評価指数を設定しました。

その上で、子どもの未読率の半減を総合的な目標と位置付けました。（表1）

この未読率とは、1か月間で1冊も本を読まなかった子どもの割合と定義し、読書離れや活字離れが進む中、子どもの読書の習慣化を図るため有効な数字であるとしてしました。

図1 2次計画での取組の方向性

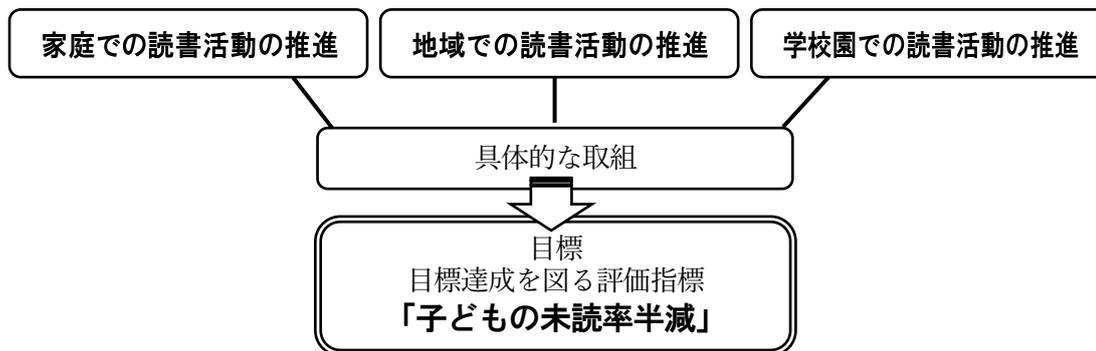


表1 2次計画の総合目標指標「未読率の半減」

■ 1か月で1冊も本を読まない子どもを未読者と定義し、これの半減を目指すもの

学年等	現状値	2次計画目標値
小学2年生	4.8%	2.4%以下
小学4年生	3.5%	1.75%以下
小学6年生	14.3%	7.15%以下
中学2年生	15.7%	7.85%以下
高校2年生	46.3%	23.15%以下

¹【法律】「子どもの読書活動の推進に関する法律」平成13年（2001年）

第2章 第2次計画の成果・課題

2次計画の成果と課題を検証するため、令和元年9月から11月末の約3か月間、市内こども園等年長クラスの保護者、小中学校2、4、6年生、県立備前緑陽高校2年生に対し、「子ども読書アンケート」²（以下アンケート）を行いました。質問項目は、そのほぼ全てが1次計画・2次計画策定時と同じであり、長期にわたる本市の子どもの読書環境の変化を見ることができます。

1 成果

2次計画の成果を計画に設定された「家庭」「地域」「学校園」の場で確認します。

(1) 「家庭における読書活動の推進」

家庭における読書活動推進では、『ノーメディアの日を設ける取組をしていると回答した児童・生徒の割合』に成果が現れました。（表2）

表 2

施策の方向	成果の指標となる項目と結果
保護者に対する啓発事業等	ノーメディアの日を設ける取組をしていると回答した児童・生徒の割合 2次計画目標値 36%→ 結果：小学校平均46% 2次計画目標値 13%→ 結果：中学校平均19%

これは2次計画の期間中、学校園を中心に様々なメディアコントロール³の取組、啓発活動がなされた成果とも言えます。

(2) 「地域における子ども読書活動の推進」

市立図書館の児童・生徒向け蔵書の充実が図られました。（表3）2次計画策定時から約3,000冊の蔵書増となっています。

表 3

市立図書館の児童・生徒向け蔵書の充実	市立図書館の児童・生徒向け蔵書数（実績値） 2次計画目標値→50,000冊 結果：52,845冊
--------------------	---

² 【子ども読書アンケート】 巻末資料参照

³ 【メディアコントロール】 スマホや電子ゲーム等、メディアに接する時間や内容を制限する取組

(3) 「学校園における読書活動の推進」

市内小中学校⁴は、朝読書等の定着が促進しました。(表4) また、この取組により読書が好きになったと回答した小中学校の児童・生徒が前回の平均22%から28%へ上昇したことなど、有意な効果が見られました。

表 4

朝読書等、学校園での恒常的読書活動の定着	クラスで朝読書等、読書活動を実施しているとした回答した割合 2次計画目標値 75%→ 結果：小学校平均85.3% ⁵ 2次計画目標値100%→ 結果：中学校平均98%
----------------------	--

このほかにも、「本を読むことが好きですか」との問いに対して、最も肯定的な選択肢「好き」と回答した小学2年生が70%（前回比+18ポイント）、小学4年生58%（前回比15ポイント）、小学6年生52%（前回比16ポイント）と小学生の増加が顕著に見られました。

2 課題

次に2次計画の課題を計画に設定された「家庭」「地域」「学校園」の場で確認します。

(1) 「家庭における読書活動の推進」

ブックスタート事業⁶については、今回調査では前回調査時より約5ポイント減少し、目標に届きませんでした。(表5)

2次計画期間中、実際に4カ月検診でブックスタート事業を行った人数は、平成28年度1771人、29年度184人、30年度179人であり、検診受診者数に大きな変化がないことからブックスタート事業自体の周知が十分でなかったことが考えられます。

表 5

ブックスタート事業の充実	ブックスタート事業を受けたことがあると回答した保護者の割合 2次計画目標値 40.5%→ 結果：30.1%
--------------	--

(2) 「地域における子ども読書活動の推進」

こども園等の保護者を対象にした調査では、目標としていた図書館利用に係る数値を下回りました。(表6) この利用率の低下は、こども園等で、園の図書を貸し出す取り組みを毎週行っていることも影響していると想像されます。

また、小学生以上の子どもの市立図書館の利用が減少傾向にあり、近隣市町の図書館を利用している様子も調査から読み取れました。

⁴ 【市内小中学校】 備前市では市内小中学校の学校図書室に司書を全校配置している

⁵ 【朝読書 等】 小中学校への聞き取りでは、市内全小中学校で朝読書等の取組が行われている

⁶ 【ブックスタート】 0歳児検診時に保健師や図書館職員が子どもと本との出会いを支援するため、絵本の紹介などを行う活動。備前市では4カ月検診時に絵本のプレゼントと共に読み聞かせ等の大切さを啓発している

表 6

市立図書館主催事業等の広報活動・啓発活動の充実	子どものため市内図書館を利用したと答えた保護者の数 2次計画目標値 60%→ 41.6%
-------------------------	---

また、小学生の調査からは、市立図書館を「この1年間は利用したことがない」との回答も増加傾向にあります。アンケート全体で市立図書館の利用が低下傾向にあることが伺えます。小学生の市立図書館の利用には地域差があることも見受けられました。(図2)

(3) 「学校園における子ども読書活動の推進」

学校園では、学校における司書の図書館活性化等における活躍、園における図書の貸し出し等の取組により、子どもの読書活動活性化に大きく寄与していることが明らかになりました。そのため、課題として取り上げるならば、学校園の活動を一層活性化させたり、負担を軽減させたりするため、市立図書館、地域・家庭が取組を進めていくことが今後の課題であると考えられます。

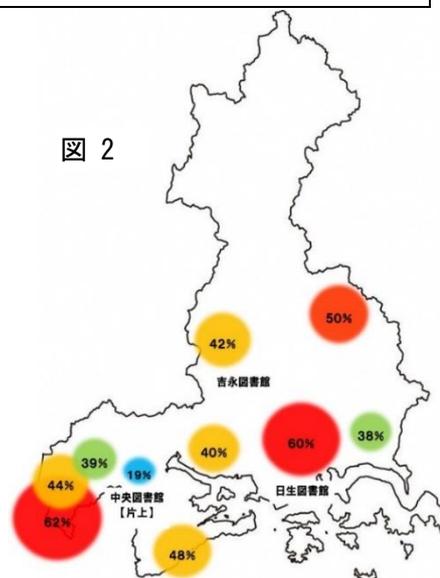


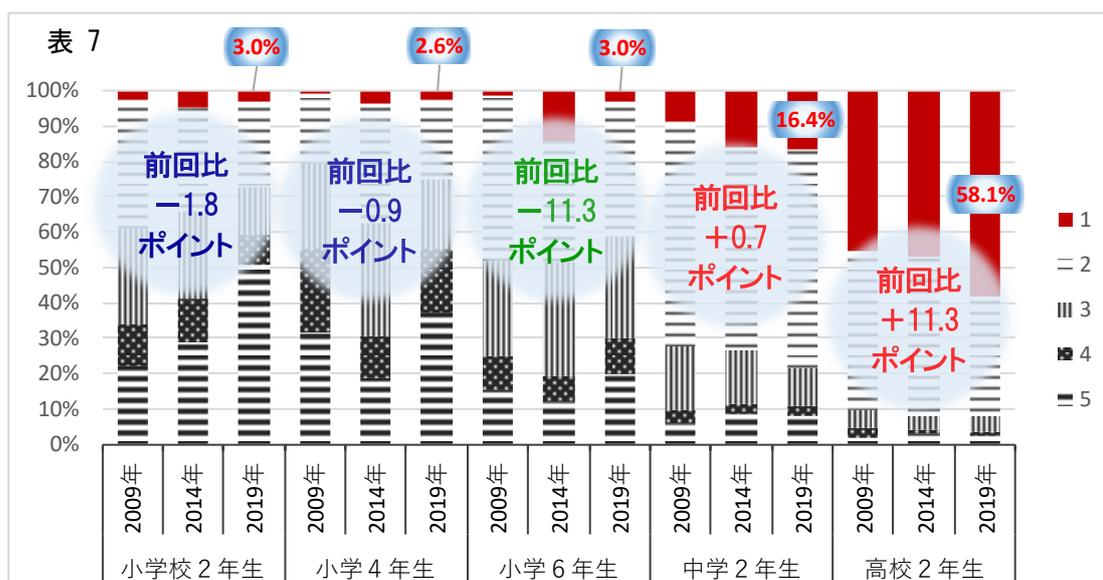
図 2

「市立図書館をこの1年間は利用していない」と答えた小学生の学区別割合

3 総合評価の検証

2次計画の総合評価指標としていた「未読率の半減」は、小学生では6年生が目標を達成し、小学2年生・4年生では目標には届かなかったものの2次計画策定時より未読率が減少しました。(コラム1)

一方、中学生、高校生は、2次計画策定時より未読率は高くなる結果となりました。(表7) 中高生の未読率増加をアンケートから考察してみます。



『問4 あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。』

1・0冊 2・1～3冊 3・4～6冊 4・7～9冊 5・10冊以上

【目標値】

小2：2.4%以下 小4：1.75%以下 小6：7.15%以下 中2：7.85%以下 高2：23.15%以下

アンケートの内、「平日の過ごし方」を問う設問をまとめると学年が上がるにつれ、スマホ・パソコン等の使用時間が上昇傾向にあり、特に中高生では顕著な増加が見られました。(表8)

このことから、2次計画期間中の5年間でのスマホ等インターネット接続可能なパソコン端末の普及により、子どもたちの生活に変化が生じていることが推察できます。

表8の集計項目による小学2年生の「平日の過ごし方」は計4.3時間となり、「平日の過ごし方」全体に占めるスマホ等の割合は1割程度、同じく中学2年生では計5.2時間となり全体に占めるスマホ等の割合は2割程度となります。こうしたメディアに触れる時間の増加は、就寝時間が遅くなるなど、生活リズムにも影響を及ぼしていることも推察されます。

スマホ等のインターネット機器との上手な付き合い方を考える取組、いわゆるメディアコントロール等の重要性が、子ども読書活動の推進に限らず、子どもの生活リズム向上や家庭学習定着等の面からも高まっているとも言えるでしょう。

表 8



表8 平日の過ごし方について

「読書」「マンガ」「テレビ・DVD等」「ゲーム」「スマホ・PC」「外遊びや運動」「宿題・勉強の時間」をそれぞれたずねる設問。0分、30分未満、30分以上1時間未満、1時間以上2時間未満、2時間以上の5つの選択肢から該当を回答するもの。(詳細は巻末資料参照)

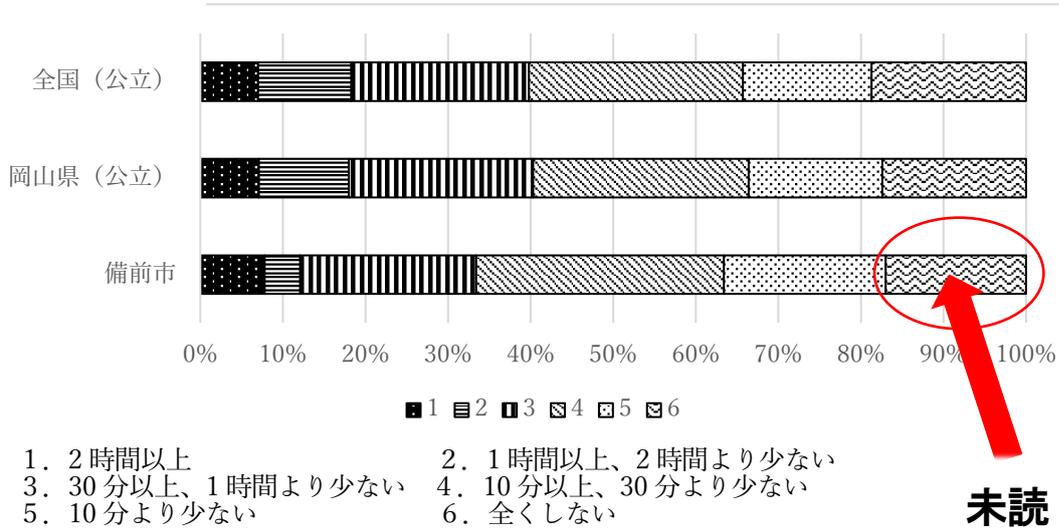
表8では、各学年・各選択肢の回答平均値の内、30分未満を15分、30分以上1時間未満を30分、1時間以上2時間未満を60分、2時間以上を120分として集計し表にした。

習い事や塾などの時間は含まない。

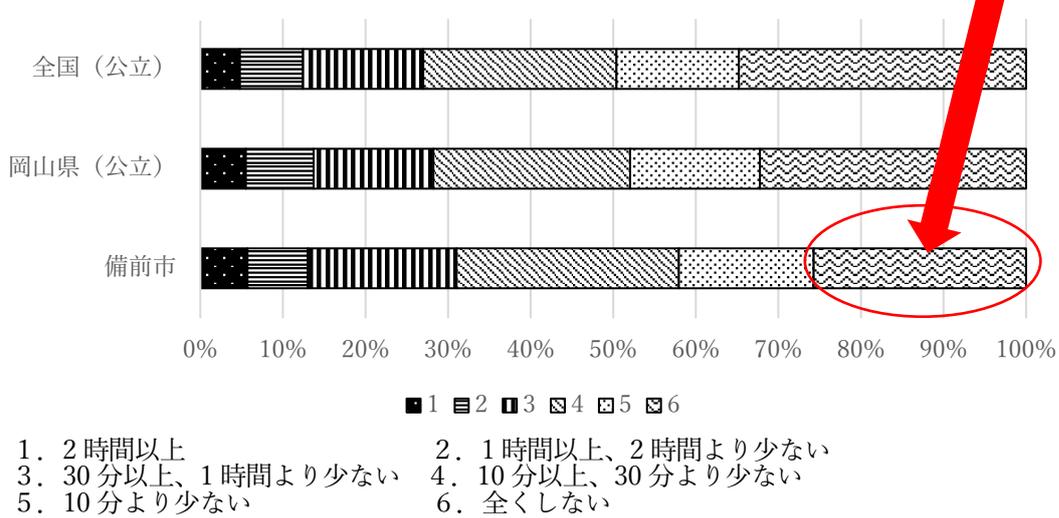
コラム1 他と比較した備前市の状況

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の「平日どのくらいの時間、読書をしますか」の問いで、備前市の子どもは岡山県平均、全国平均より未読の子どもが少ない結果となりました。

小学6年生



中学3年生



また「読書が好き」と答えた子どもは、全国平均より小学生で4ポイント以上、中学生で3ポイント以上高い結果となりました。

【全国学力・学習状況調査とは、日本全国の小学校6年生、中学3年生を対象に毎年4月に実施されているテスト。教科の内容と家庭・学校生活を問う内容に分かれている。】

2次計画の達成状況

	施策の方向	成果の指標となる項目と結果	評価
家庭での読書環境 充実のため行う取組	ブックスタート事業の充実	ブックスタート事業を受けたことがあると回答した保護者の割合 目標 40.5% → 結果：30.1%	
	保護者に対する啓発事業等	ノーメディアの日を設ける取組をしていると回答した児童・生徒の割合 目標 36% → 結果：小学校平均46% 目標 13% → 結果：中学校平均19%	○
	市立図書館・学校園が連携した支援	市立図書館と学校園が連携した支援 目標 2回25人 → 結果：39人	○ 合同司書研修会
地域の読書環境 充実のため行う	ボランティアへの研修機会提供等	読み聞かせ講座に参加したボランティアの人数(実績値) 目標 延べ100人 → 87人	
	市立図書館の児童・生徒向け蔵書の充実	市立図書館の児童・生徒向け蔵書数(実績値) 目標 50,000冊 → 52,845冊	○
	市立図書館主催・啓発事業等の広報活動・読書活動の充実	子どものため市内図書館を利用したと答えた保護者の数 目標 60% → 41.6%	
学校園の読書環境 整備のため行う計画	市立図書館の貸出しサービスによる学校園内の読書環境充実	市立図書館が市内学校へ団体貸出を行った冊数 目標 5,600冊 → 3,990冊(平成30年度実績) 531冊(県立図書館支援) 計 4,521冊	
	朝読書等、学校園での恒常的読書活動の定着	クラスで朝読書等、読書活動を実施しているとした回答した割合 目標 75% → 結果：小学校平均85.3% 目標 100% → 結果：中学校平均98%	○※ ※実際には全ての小中学校で実施
	ボランティア活用等による読書活動の充実・家庭への啓発	教育委員会事業でメディアコントロール等の保護者への啓発を行った学校数 目標 27校園 → 結果18校園	※事業内容の変更により一部子どもに対する事業としたため

総合指標

学年等	平成27年時	元年度(2次計画目標値)	評価
小学2年生	4.8%	2.40%以下	△3.0% (目標値に対し1.8%の減少)
小学4年生	3.5%	1.75%以下	△2.6% (目標値に対し0.9%の減少)
小学6年生	14.3%	7.15%以下	○3.0% (目標値に対し4.05%の減少)
中学2年生	15.7%	7.85%以下	16.4% (目標値に対し8.55%の増加)
高校2年生	46.3%	23.15%以下	58.1% (目標値に対し34.95%の増加)

【目標値を達成したものを評価欄に○で、目標値に届かなかったが目標に迫ったものを△で表現】